

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670600026
法人名	社会福祉法人 悠久会
事業所名	グループホーム あいの郷
所在地	徳島県三好市三野町太刀野6-14 (電話) 0883-76-2526

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月19日

## 【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	18 人
常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 北 6.05人, 南 6.25人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,500~24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費9,000円、寝具リ-ス3,000円、その他実費	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.55 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・三野田中医院 ・たおか歯科クリニック ・田村歯科クリニック
---------	--------------------------------

徳島県 グループホームあいの郷 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、川沿いの日当たりの良い、広々とした場所に位置している。利用者、職員ともに地域の方が多く、事業所は、地域との双方向の交流により、行事の際に場所を提供するなど、地域の資源としての役割を担っている。家族や地域の方の出入りは毎日のように有り、地域の行事等にも積極的に参加する他、管理者・職員は家族や利用者の思いや希望、もてる力が出せるよう常に前向きにとらえ研鑽を積んでいる。また、スタッフの手厚い支援により重度の方も含め利用者はそれぞれゆったりと穏やかに過ごされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題を全職員で話し合い、介護計画の見直し、身体拘束の同意書の書式の整備、救急救命法のグループホーム独自での定期的な訓練の実施、注意の必要な物品の管理方法の明文化等、全てにおいて取り組み改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は外部評価、自己評価を実施する意義を理解し、全職員で話し合い作成している。また、評価の意義を活かし、質の確保と向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年度は2回の開催となっている。議題はホームの現況報告及び災害時の取り組みと協力要請、ホーム及び地域の行事等の開催計画と参加依頼等である。参加メンバーは家族、地区代表(民生委員)、理事長、事務長、介護支援専門員、管理者、併設事業所の管理者、職員である。行政担当者または、地域包括支援センター職員は参加されていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、利用者の健康状態や暮らしぶりを記載したたよりを「あいの郷便り」と一緒に送り現況報告をしている。家族には利用者やホームについて、なんでも気付いたことは話してもらえるよう絶えず伝えている。電話や雑談の中で出された相談や意見等を日誌に記録し、職員間で話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者、職員共に地域の方が多く、行事等の情報も早く入り地域活動の参加も計画的にできている。家族や地域の方の来訪は日常的にあり、ホームは地域の方の寄り合える場所となっている。職員、ホーム代表者が町内会に加入しているため、何かあれば地域の方に協力してもらえる体制が整っている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員全員で話し合い、地域の中で思いやりと生き生きとした生活への支援を謳った事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビング等常に目に付く所に理念をかかげ、管理者と職員は、常に理念の確認と話し合いを行い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員、利用者共に地域の人が多く、地域活動や行事の情報は常に家族や職員から入り、散歩、買い物、祭、季節の行事の他、小学校の運動会にも地域の一員として参加する等、積極的に地域活動に参加している。家族や近所の人達の来訪は殆ど毎日のようにあり、一緒にお茶を飲み座談をしている。ホームは地域の人達の集まる場所となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を見直しのよい機会と捉え、評価項目を日誌と一緒に置きちよとした気づき等も書き入れ全員で取り組んでいる。前回の評価結果についても全員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度は2回の開催となっている。会議の内容は日誌に書きこまれ職員全員が目を通し共有している。また、委員は家族代表者、地域代表者(民生委員)の2名以外は法人及びホーム関係者となっており、行政関係者は入っていない。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されたい。また、行政職員または地域包括支援センター職員の参加が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは連携を取り、実状の理解を得ると共に意見や指導及び色々な情報ももらいサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の健康状態や暮らしぶり、金銭管理帳等の写し、「あいの郷便り」を請求書と一緒に送っている。また、急を要する場合は電話連絡をする他、家族の来訪時は一人ひとりの写真ファイルを見てもらい日頃の様子を話し合っている。金銭出納簿の確認印もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内外の苦情相談窓口を明示すると共に、ホームの入り口に意見箱を置き、苦情窓口責任者名を記載し、日頃から何でも気軽に意見を言ってほしい事を繰り返し説明している。苦情で無くても家族等からの意見や相談ことは職員間で話し合い検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は常に2つのユニットを行き来しているので異動による不安やダメージは無い。新しく職員を採用する場合は見習い期間を置き、運営者の判断だけでなく、管理者、職員、利用者、家族の意見や感想などを参考に採用している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者、職員共に常に前向きに研修に取り組み、受講可能な職員に参加を促している。介護福祉士、介護支援専門員等各専門職についても挑戦するよう指導啓発を行っているが、年間の研修計画が作られていない。研修報告は日誌につづり、話し合われているが共有できたことわかる確認印が無い。	○	年間の研修計画を立て、計画的な研修が望まれる。また、研修報告書に職員全員が共有できたことわかる回覧印やサイン等の仕組み作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所の他、地域の他のグループホームと情報交換や交流を行っている。困った時もお互いに相談しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に病院や自宅へ顔見知りの職員が来訪して話しをしたり、ホームに来てもらってお茶を飲んだり、顔見知りの利用者に接してもらったり、徐々に馴染めるよう家族や関係者と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、アドバイスをもらったり、共同で作業を行い喜怒哀楽を共にしている。また、職員は常に利用者に謝意を言葉と笑顔で伝え、信頼関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を、日々の関わりの中で把握できるよう努めている。困難な場合には、本人の持てる力の中で意向にそうようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族には日頃の関わりの中で思いや意向の把握に努め、かかりつけ医やスタッフ、その他必要な関係者とも話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しを行っている。介護計画の後に毎日の全ての記録を書き込み、体調の変化や本人・家族の希望があった時は医師等必要な関係者と話し合い、随時介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院、お墓まいり、理・美容院への外出、帰宅や外泊等必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高める努力をしている。また、医療連携体制を活かして24時間対応の仕組みを作っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添い、かかりつけ医と連携をとり、定期的に通診ができるようにしている。かかりつけ医の指示により床ずれ等には訪問看護も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から本人や家族と重度化した場合や終末期のあり方について説明や相談を行っている。家族の来訪時やかかりつけ医とも機会あるたびに話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。運営規程、契約書に秘密保持、個人情報保護について明示され、全職員への理解と徹底が図られている。プライバシーについては常時話し合いの機会を持ち個人情報の書類についても保管と管理ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが、利用者の状態、本人の希望、気分に配慮しながらその日の暮らし方を支援している。一人では決められない、感情が出せない人にはそっと手を握って話しかけたり、寄り添う等スキンシップによる心温かい支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節の物を取り入れ、一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に準備や後かたづけをしている。食べるのが遅くてもゆっくりと自分の力で食べられるよう見守りながら楽しく食事ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	順番をクジで決める等、入浴を楽しんでもらえるような工夫を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花の生け方、ふきの皮むき、裁縫等一人ひとりの生活歴や力を活かし、希望を聞き、できること、やりたいことをしてもらって、役割、楽しみごと、気晴らしの支援に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、理美容、墓参り、ドライブ等一人ひとりのその日の希望に添って、戸外に出かけられるようにしている。広い裏庭には利用者と一緒に作った色々な格好のカカシがまるで人間の様に見られ、利用者は思い思いに庭に出て楽しんでいる。車イス等の利用者も一緒に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はオープンにし見守りの中、自由に過ごしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者、職員、消防署員等の参加で年2回昼間と夜間の災害を想定し避難訓練を実施している。また、消火器の使用訓練も行い、緊急時の連絡網は協力医療機関と話し合い互助協力をする体制を作っている。マニュアルも整備し、地域の協力も得られる体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取状況は毎食後チェック表に記録し、一人ひとりの1日の摂取量を把握し情報を共有している。職員の管理栄養士が、季節の旬の物を取り入れ利用者の希望やそれぞれの体調にあった食事を提供している。各部屋には水筒がおかれ、いつでもお茶、お水が飲めるようになっている。また、自力摂取困難等で水分補給が必要な人にはコーヒーやゼリーにするなど摂取しやすい工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツが畳の部屋とリビングの2ヶ所に有り、イス、テーブル等も程良く配置し利用者は寝ころんだり、雑談したり、思い思いにゆったりと過ごしている。居間に生けている季節の花や、お雛さまの貼り絵、お裁縫の得意な人の作ったチューリップ等は利用者と相談しながら一緒に作ったり、飾り付けを行い、みんなで季節を肌で感じながら過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや小物入れ等馴染みの物が持ち込まれ、希望や体調により畳を敷いた部屋もあり、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室では家族も泊まれるようになっているため、時々泊まっていく家族もいる。		